

138

75

頭書
校訂

活語指南

下

東 京 圖 書 館				
二	七	四	三	和歌類
冊	五	三	六	
	號	架	函	和書門

活語指南 後卷

●變格活

第十五

將然

むねぬい^レでむ^レナド受ルハ將然言ナル^レ畧^レニ見エタル^レソノナカニ
をんぬ^レト受タル四首ヲアゲテ証ス。コハ何レノ活語ニモ同事ナカラ
五十音ノ才五^ノ韻ノ文字ヲ用ラキニセル^レハ。タ
此^レノ^レニユエ念ヲ入テ初学ヲサトサ^レハスル也。

古三 ○み月^をな^さもあ^るんか^とさ^るま^さる^かの^ま然^さら^なや

同十五 ○暎^のま^さの^ねね^さも^とさ^らさ^きみ^がこ^ぬ夜^ハさ^れぞ^かま^く

同十四 ○と^らん^とい^ひい^はる^に長^月の^まの^乃月^をま^らち^出つ^る那

同二 ○ら^ふこ^ぞば^らの^雲と^まあ^るま^ま清^むど^ハ有^らむ^もむ^もみ^まや

き 連用

〇きよりの証
 例聊アカ又心地
 ス左ノ哥ニテハ
 イカッ
 續古今夏
 時島まつク暮
 の村雨ハ刺鳴
 りぬ先ハ袖ぬ
 らしり

〇来ノ截断ニ刺
 〇来ノ来ハモモ
 分ナラズ

土佐日記
 五日風浪々々
 ねハ同一所ハ
 あり人々訪ひ
 来
 字治拾遺九
 白紙ハ包ミ
 物トシテ
 持て来

古序
 〇天つちれひらけ初まるる時よりいささけなり

古
 〇梅くえよきふる学もろけてあはれいささかめさけなり

源氏ナトニき。方乃来ナト云ヘルハ。きハ連用言故モトヨリサル
 べき理リナレド。ト。ち。ト受ル片ハ。ヨリ云ルヨリモ。こヨリこ。

こ。トイヘルゾ古歌古文ニ多カル。八衢ニ即加行ノ処。又佐行ノ処
 其辨論アリ。ソレニツキテツラ。ハ考レハ畧圖ノ

こ	き
せ	す

来字爲字ノ二行
 氏ニベク物スヘキ
 上ケヘキニハアラサルナリ。ヨク辨フベシ。

く 截断

古
 〇東のよより来へまうで。そきよ

古平
 〇マかせこがくへさよひありさくがよの物のあるひもそきよ

くる 連射

古
 〇うぐひすの岩より出るあひたぐまをたれうあらや

古
 〇あやものむそがてらよ。人ハちうあん後ぞこひーかるるを

くれ 已然

古
 〇あむなるおそるまきことのみいてくれ。

古
 〇あつれどこひーき時をわー川の山より月のかてこそくれ

こ 希求

古
 〇陸奥のつらさのまうあひうむとそきよ

万七
 〇依く浪のちくくら山雲みれば雨ぞあるてふかへりこそかせ

こそトカ、リテ
 截断トナル

及 来 吾 背

第十六

將然

○又てのそやんようららんさう花をいれをりておつとよさん

○をみるへしおほる母へよとらせ。バ。のやなくあはれ名をやたちあん

佐行ニテ此変格ト云ベキハタラキ詞ハ為るトおえけるトニツナ

ル一八衛上卷四
十四丁ニ三エタルが如シ。ソノ中ニテ為るト云ルニツキテ

今ハ五轉ノ例証ヲ一ツニツ出スナリ。たえするトイヘルニツキテソノ

五轉ノハタラキサマノ正キ。又聊異ヤウナルナドノコトカナル

ハ。山口栞上ノ四六ヨリ
五三マデシ見テ知ルヘシ。サテあしノニノ辞ニウケラル、

又ヘキニ。カ行変格来ノ
トコロニイヘルがゴトシ。

詞ナルコトヲ知

ルベシ又軍書ニ

テハ

盛衰記卅二忠度

ノ件

勅撰ノ時ハ必

思召出セヨト

テ巻物一卷泣

々云々取出タ

リ

同七俊寛ノ件

成人タラバ相

構ヘテ法師ニ

ナリ吾後世ヲ

弔ヘヨト泪モ

カキアヘズ

ナド枚奉ニ暇ア

ラズ殊ニ源氏等

ハ長大歎ニ付ス

ヘキ大事ナル処

ニ折々アル詞ニ

シテ尤味ヒアリ

若紫ニ源氏の幼

事紫上ノ宜ふ詞

この膝の上ノ大

殿籠れよ又空蟬

は源氏の小君と

愛し下ふ処は吾

子よてあはれよ又

柏木は右衛門督

の死ぬる処りの

院の中よあくが

れありうむ結ひ

止め玉へよナド

アルハ文章上実

ニ千人ノカアリ

如斯モノヲドチ

ラニテモヨロシ

キ様ニイヘルハ

残念ナリ尚委ン

クハ愚著雅俗文

法後編ニ出セリ

關テ見ルベシ

志 連用

○仁和の中將のそやまん所の家よお合せんとてあける。時ノ淡々る云

為果る。あうへスナド。アグルニタヘズオホシ。

志 截断

○なりひらの胡弓をさころささめびありまると。たれひて

上佐日記
うまのちかむけ。タ。門。出。ス。ナド。

志 連射

○秋の野よりもまよひぬ松虫はあまをる。ふなとやわらま

○五月まつ花橋のうをうげむむうの人のそがれ。まぞ。ま。る。

志 已然

古三 〇夏の夜のふれりくまをれ。バ。時多たぐ一了急り。い。ろ。ろ。し。の。久

古四 〇こよひいん人よはあはしたるうこの久。た。ち。ど。れ。ま。ち。も。こ。そ。ま。れ。

〔せよ〕 希求

古七 〇あよひひあや子代よとろそへてとめねまてハおひひてよせよ。

古物名 〇夏川のふべよをれをまゝ雲のいうよせよ。と。う。も。ろ。く。と。た。な。ま。さ

コノ用言ニツキテモ。ハ衝上ノニイヘル下アリ。イハク。あ。い。う。云。

せ。い。せ。い。う。あ。い。う。の。い。受。る。ま。い。コレハカノ来ノてヨリモきて

ヨリモ受ルトハ又異ニテ。あ。い。う。あ。い。う。トイヘル下ハ一モナクイッ

モイツモせ。い。せ。い。う。トイフ例ニ。コノ格モ底廻影ナル。〔ニテツマビ

ラカニ。サテ此佐行変格活詞ハ夥シケレド。原ハタゞニツ。其。一。ハ

あ。い。う。今。ッ。ハ。れ。え。す。る。カ。ク。テ。れ。え。る。ト。云。言。ハ。コ。ト。ニ。ヨ。ク。ヤ

バ。ハ。タ。カ。フ。多。カ。ル。ベ。シ。山。口。栞。上。卷。六。ナル。辨。ノ。ク。ハ。レ。キ。ヲ。ミ。テ

曉。ム。ベ。シ。希。求。ハ。〔せよ〕。れ。え。せ。い。ト。云。ガ。ツ。ハ。定。格。ナ。レ。ド。稀。々

ニ。ハ。れ。え。せ。ト。よ。文。字。ノ。ヘ。ズ。テ。タ。ゞ。ニ。仰。ス。ル。詞。ト。セ。ル。モ。ア。ル。ヨ。レ

ナ。ド。モ。山。口。栞。ヲ。ダ。ニ。見。バ。精。細。ニ。レ。ラ。レ。又。ヘ。シ。

△第十七

コ、ナル活キノ詞ハいぬる死あぬる死ノニツノミストハ衝ニイヘル下ゲニ然ニコレ
ニヨリテ次々五轉及希求ノ六ツノ活用ノ例。此ニ語ヲ各一ツ。出シテミス
ベシ。但シ右ニツモ実ハ一ツ。去ルニ過スハ言ノタゞ。マリテすぢぬる。ソレカツ
マリテあぬるトナレル。人ノセスルヲすくほ下ヲ兼ナドニ多ク。今世モモ下ハ一ツ。

〔か〕 將然

古十 〇あけけいり。此。あ。の。れ。え。て。い。な。む。あ。い。う。と。い。え。や。ま。ら。ん

古十 〇あ。あ。あ。バ。た。ガ。名。を。た。ら。し。世。の。中。の。あ。あ。あ。お。い。ひ。ハ。な。ら。ん

に 連用

古上 〇 意しこい命をうくるおたろくバあ。ハやまぐぞあるべうりある
古上 〇 及あつたあひもあうんりみぢたをぬこも向て秋ハい。うり

ぬ 截断

〇 足引乃山之黄葉今夜毛加浮去良武山河之瀬爾
〇 意しこい命をうくるおたろくバあ。ハやまぐぞあるべうりある
〇 ちぢりおさうしつせもが書を命うそあまれあまの秋もいぬり

ぬる 連躰

〇 意ぬる命いさもやまるところろみい玉のをえうり遠んといえあん
〇 去日昨いぬる。学たうこくきうんりまうんまもたもほせを

〇 戀しきみの哥
死ハトイフモ
助辞ニ掛リタル
ニテ思ハシカラ
ス万葉ニ

思ひまゝ死ふ
すも物もあう
ませむ千度ぞ
我ハ死ふくへ

是ニテヨロシカ
ルベシ

〇 ぬノ截断ニ
ぬり死ぬとぞ
又いぬりトイ
フラ出シタルハ
らとゆり何レ
モ截断言ニ属ス
ル詞ニテハアレ
ド初心ニハ余リ
難カラント思フ
ナリ
宇治拾遺三

素内申さんと

てまゝの方よ

入れていぬ

又同四ニ

大僧正と生ま

せ玉とといひ

終りて即死ぬ

〇 死ねトイフ希

求詞ヲハトイフ

ト受ルヤ答ヤノ

論諸家ノ説種々

アレド予ハ死ね

ト死ねトイフ
ニ論トカルヘシ
ト思フナリ既ニ
此処ニ引用セル
旋頭哥モ万葉素
本ニハ死許曾ト
假字付ケセリ鈴
屋翁書入レニシ
ナセコソ又シネ
コソトニツノ加
筆アリ元ヨリシ

ぬま 已然

〇 いささう海やあまける山哉死為死許曾海者潮干而や夕々枯れまれ

〇 こりぬのあまへをて打歎き妹ういぬれ。バらぬをとて

希求

此ぬらむどどトウクハアハヤウハちまこニハ図セレドイカシ
今此略図ニハ其だごどもハタゞぬれンウクルニテ。か希求ノツラノミ
ニ図セルヤウ心ヲツケテヨ。上ニ引ケル方十六ニノ死許曾ラシ子ハコソ
トヨノバ。をト受ルナレドソハ叶ハジ。

〇 意あぬとまるとまららしうをむのようんすかうよあふえつ

〇 妹の田のいぬてふ。もくけなう。小伝をう。とり人のかるらん

此第十七ノ活語ハ上ニ云ル如ク。徃死ノ詞ニツノミ。但シ常ニてつ

つる。つれニタグヒテてはをえ。ノ。トイヘル。ぬぬぬ。ぬぬ。ぬ

此才十七ノ徃死ト同ジ活。サレバ。て。あ。て。ぬ。ニタグヒテハ

くる 連躰

○^古 後風こくる。秋のひまごとくうち出るたみやまのまつたを

くれ 已然

○^古 秋のひりみちをぬきこむ。ん。バもむあまを旅こちすは

けよ 希求

○^古 此系八十考うけあこきぬとくはつげ。よまのつり舟

此下二段ノ用キノ^{イダラ}けてて採へめえれ急ウ。其下ニテ^〇文字
ソヘズニ。タビニ希求トセル。古キガ一躰ト云フオモムキニハチ
ま^{ヒノ}ニハ三エタリ。ゲニサヤウト思ハル。然レモ又思フニ。ソハ
ナホ下二段活ノ才四音ヲ下知ニセルニハアラデ。下二段活ト後

ニハナレル詞が古クハ四段ノ活キナル

ソノ明ノル例証ハ。恐リ隠リナド。山口
葉ナドニツバラエ見エタルガゴト。

故トモ云ベキカ。躬恒集。埴まむ入江のあもふりやまのうゝろの
淡よよせよけつ浪。カク字アテリテハレラベムツカレゲナレド。オク
ベギよ。モジヲオカヌ。ハサスガニアタハザリケンナドヨリモ考
フベキコゾ。

△第二十 佐行

せ 將然

○^{後付ナレ} あり川の流のいよみまわしれど。もろく人をよせ。おをや

此よせ^〇下二段活。ラよ^〇四段ノ活。トハイハレヌニテ准ジテレルベシ。合^〇下二段
せ^〇下二段。せ^〇下二段。ナドヲ。合^〇下二段。せ^〇下二段。せ^〇下二段。ナド云ヒテハ語

ト、ノハヌーシ。初学ヨク心ヲツケテ畧図ヲミルベシ。

せ 連用

○^古つる蟲もちとせの後もあつなくふあうねころよまうせとてん

右ヲまうし。とてトハイハレヌヅ。畧圖ニ心ヲトビムベキ要コ

コラノフニ。何處もハ下ニ用キナルニヨテ。とて伝ヒをつる伝

フ用言へハ必セヨリウツレリ。必し。ヨリウツスベカラズ。畧

ハトモスレハ人ノ誤ツフニ。鈴屋集ナドニサヘ之が用ヒ
誤アリ。雑話ニ編ナル何れや。むのノ条ヨク考フベシ。

ま 截断

○^万吾君よりけハ恋らし路ひつる蓐花をくんどいやをせよやと

ま 連射

截断言

瘦

○^古沙風のまきくもゆるうおよゆる涙とるりやあさまたつらん

コレヲオよを流トハイフテジキニ例シテ。何人合ハ事ナド

ミナヒガフニテ。必し何處も人合を事ト様ニ云ベキ程ヲ察スベシ。

ま 自然

○^古おどろ人をふせたまらむれたいさけれどえあまぞ

スベテこそノムスビヲセ伝語。こそノムスビヲまれ。伝語トノワ

ケヲレルベシ。さあせ。トイヘルモさあせ。トイハンモ。何ノワカツベキ
コトワリアラント云ヘル説ヲ然ラズトテ論ヲツメラレシコト。さ

一でのいそニ
見エタルヲミヘシ。

せ 希求

○^三塩みてを入はめもふうやまのあーろれ涙よせよ沖り流

コレヲ三ヨ下二段ノ用キモハ必^ル上^ル文字ソヘテ希求トスルガ通
例ニよセ沖つ流ト云ハ七字ト、ノヒ字余リニナラズヨキ様
ナレド、貸^カに足^タに刺^サにナドノ如キ四段ノハタラキコトバトハチガ
ヒ、女^メよ、夫^{ツカ}カノ、伊^{イハ}をも、瘦^ヤも、失^ウもナドハ、せよトイハテハナ
ラヌワケトクト合点シ玉ヘ。

第廿一 多行

て 將然

〇大^古なる月をもめて、^古そそこのつねにバ人のをとなるもの

て 連用

〇侍^古人もとぬりのゆきと雪のなまきりるえびを打てけるうち

〇折てりるヲ証
哥ニ出スモ充分
ナラズモ々々
モ助動詞ナレバ

ナリ拾遺哀傷ニ
限りあれむ今
日ぬき松つ藤
衣きてあきも
のハ泪々々

祢^ネてのねけのまのふりてもナドヤウニで、ツカフハ下二段ノ
連用言ヲ躰ニ云ヒナセルニテ、あひいで、せんノいでナド、モハ
ラ同じサレバ紐鏡ニハ才廿六段ノ **つて** 才二十段ノ **つて** ト
ワカテレド、今ハコレヲ **つて** ニ **つて** ヘテ引証スルニ。

つ 截断

〇^古あし^古く^古あし^古く^古を^古あ^古へ^古む^古く^古さ^古れ^古の^古ね^古ま^古り^古の^古衣^古も^古よ^古い^古づ^古ち^古ゆ^古あ

勿^レノ^レを^レテ^レ受^ルル^ハ必^ズ截^断言^{ナル}例^ニ。
但し初ニ云ル如ク、コノ莫ハ右様ニ用フハ諸活語ヘ
付キハセサルニ、略図ニテハ加行変格來をヨリ
勿^レテ^レテ^レヘ^レコレト同意同語午フ勿^レ來^ルそ^レ於^テ色^ノ莫^出矣^ト様ニ用フハ、用言ト用言トノ間ニ
挟リテ、其^レハ^レ連用言ヲちト受ルニ、サレハ躰言ツウケ連用言ニテ、治ルハ震莫^引人^勿終^スそ
ナド比^レ同^ニ様ニテ然用フちハ畧^ノ過去^ハ不^レ不^レ將^ノん^んぐ^ヲ除^テア^レ自^余ノ諸^活ハ^ハ皆^渡之^ニ。
又^ハ截^断言^受ル^莫ハ^上ニ^イハ^ル如^クソ^レヨリ^狭ク^形状^言ナ^ドハ^皆及^ハサ^ルニ。

つる 連躰

古二 ○公風よりとらる砂のむかぶととらうちいつる浪やたらの初たを

了 已然

六帖三 ○まぐれむえんとあふとらこそそのなみのなるとあふたちいつれ

此ハテノ句後撰ニハともによけれトアレド六帖ニテハ立出まナリ
受辞ノ方ニテ証セバ世中ハうき才にそへる影をれやたれひを

了 希求

てよ 希求

古二 ○こりのこ恋れをくろく花の都よささいでよあさなまをん
カノつづるナドイヘル辞モコノ用キ詞ノナレバ久々の天
の河系の後しち君とらるるバかぢうくしてよナドモ上ノ

第廿二 奈行

咲いでよト全ク同例ニ

ひもくくニ寐るヲカサ一段ニレ尋るナドヲカサ七
段ニ奉タルヨリミレバ別ナルサテ二段タレド寐るモ
尋る付る撮る兼るナト、異ナルサテニレサレカ
ラニ一首ツト例ス中ナレドコノ行ニテハアルハニシ
ナラベ出スベシソノハ寐寝ノ字ニアタル語一ハ自余
ノ諸ニ當ル言

將然

古一 ○まぐれむえんとあふとらこそそのなみのなるとあふたちいつれ

連用

古六 ○ねてもあねてもあえたりたうつせまのよまをまよハ有ある

万八 ○まぐれむえんとあふとらこそそのなみのなるとあふたちいつれ

〇ねても又ねで
トイフモ初心
ニハ分り難カラ
ン玉葉集ニ
河千島月よと

こそラ結テ了れトイハ
ハ已然言ナル例ニ

ぬ 截断

寒みのねずあ
れ之ねさむる
毎声の聞ゆ

〇占上 一ももあさ人をやねさくふ家のたくといあげさぬいふあのがん
命乗春 あくあうまうふさうをたつぬとそくうぬやまのあうつるふ

ぬる 連射

〇占三 ちりをだうまをどとぞあふ嘆しより妹とまがぬる。床又のたれ
占十五 二條の山いりまちらん年あもたづぬる人もあくじとるへバ

ぬれ 已然

〇占上 ぬいほくぬれむや人のええつらん後とありせはまごうきうを
後松雅 ふる々の二條の山まをぬれぬれどまごまは月の影むよまなし

ねよ 希求

〇占品 ちまふをねよものひうつるれど君をしもへバいれくそぬり毛
占イト ちまふやまをの仲ふそまいたていつりうさねよちよけなるくし

第廿三 波行

将然

組鏡ニ経るト侍るナド、ラ別ノ如クセレド全同ナシ
故ニ実行モ或ハニ証并ベ出ス意バへ次上ニイハルニ同ジ

〇占上 ちまに啼てひちよりかどもまゑりぬれうー神くそまぶるふん
占中 ちまに啼てひちよりかどもまゑりぬれうー神くそまぶるふん
占下 ちまに啼てひちよりかどもまゑりぬれうー神くそまぶるふん

連用

〇占中 ちまのさるうゑたりらるふくたへうりらるふ

〇かくばうへ経 ちまのさるうゑたりらるふくたへうりらるふ

ふ 截断

ナドハむへ。伝ヘルノミニテ其語ヨクト、ノヒ、よ。文字ソヘタル方ハ却リ
テ俗ニ近キニテ。へ。よ。ノ同例ニテハナキゾ。

〇

△第廿四 ・麻行

め 將然

〇^古天つうせ。雲のうよひぢ吹とちよをともめれをどあむしとめん

め 連用

〇^古かこころあぶさあふつさらーなやをぞけふよてる月をそんて

む 截断

〇^古おまゝハうつてお殖しほととぎる来鳴こよめてこいまよとてい

今 ひと云語ノ用キハ麻行下二段ニテ求む止むナト、全同ナレド、
 坎しむニカギリテソレガ上ニタツ語ヲ受ルヤウ外ノ 求む止む動む
ナト多クノ
 語ニ異リテ普通ノ連用言ヨリまさり。めトハナク將然言ヨ
 リまさり。むトヤウニ云例ニ。 かめんまじませ
ナドニ類フニ考フベシ
 むる 連射

〇^古梅系 ちちふるむくりうりしより人のとがむふ者よどいさるる

むれ 已然

〇^後さびしさに宿をま出てあがむれどいつとも日一秋の夕ぐれ
 コハ一本をくむれむナルヲ。どトウクルモをトウクルモ。トモニ
 むれハ已然言ナル証ニ。

古五 神あひの心をまよふゆゑ秋あればふる川をぬぎわたむる

く 截断

古七 信のえの原よりあまのうへや夏のうらひぢ人めくらん

くろ 連射

古七 さうさまに年もせうあんたもあへばまごる齡やこもにへるし

くれ 已然

古九 家人の使あるらしもるさめのよんどんをぬぐはへた

きよ 希求

万十六 吾門より千よりあまのつたよたよたよか一夜美人よあまれ

へ 第廿九 多行

〇よくらんノ詔
例モ思ハシカラ
玉葉尺教
偽リも誠もけ
よもあまのり
り迷ひし程の
心もぞく
是ナラバヨク截
レタリ

〇もいぢぬトイ
へハ将然ニ非ハ
即打消ニテ紅葉
セズノ意ナリ然
ルニ此書悉クぞ
ぬ添テモ皆将然
トセルハ委シカ
ラマ詞ノホヲ受
テもみちんも
ちむトイハハ将
然ナレド紅葉ぬ
ももをせトイへ
ハ打消シナリ其
外ニモもいぢぬ
んもいぢぬナド
イハハ希求ナリ
只押籠メテ何モ
将然トハイフ可
ラカ此書都ヘテ
如斯ニツキ聊コ
ニ断リ置タ

ち 将然

古十 雲あうてさうのくれぬる時こそそつひよみぢぬまつもええくれ

ち 連用

古序 かつた哥のむよむぢぬ又 古秋 〇よのあま秋を悲きよもちづ

つ 截断

古十七 おりひせくさろろの中の流まれやねつとハみれど春のまことえぬ

コレハ截断ラトトウケテ下へツバケリ又下サレクつトキレタ
ルヲ示サバ

つる 連射

清正集 〇まゝそめの衣よそわづのめたりひかわつらまゝハぬ

〇^五秋の月山色さやうりてらせるハたづる。み葉乃とををみよこら

了れ 已然

〇^六たうたてをオこそおづれ。其の田のふくくこもいふハやめてん

あよ 希求

〇^七天つ風雪のかよひぢふささぢよをとめのまをこまむりこめん

コノ中二段ノ多行ノ活キニ満満ミツミツナドハ用フベカラス。世人多ハ誤レリ。

ト云詞ハ四段ニ活クト下二段ニハタラクトニツアリ。細論山口

葉中卷ニ出タリ。

〆第三十 ・波行

ひ 將然

〇^一山さみちくもくものあつよのまうれてこひん。まひハいぬも

ひ 連用

〇^二其日神のゆきまをふてねひい。くもまけらうよみえ。若ハも

ふ 截断

〇^三夕ぐれハ雲のくそそ小おそねりハ天つそを人をもこふ。そ

ふる 連射

〇玉の珠よ。うえあむたえね若らんハあのみ。ふりのみよりもぞする

ふれ 已然

〇^四あのかれバくろしき物を人あれどあふてふそやたれよう。うん

ひよ 希求

あやぬトアル。此むくいハ連用言ヲ躰ニ云ヒナセル。抑報いハ報いトスルハハルカ後ノ。モトハ也行ノ活ナル。字鏡ニ牟久以ト書ルニテレルシ。猶山口采ニクハシキ説アルヲ三ヨ。

コレモ体ニセル

○吉十七六月をもめぞこれそこのつれむ人のたいとあるの

○百こいまるびゑハ^死ぬともいちぢろくまハおど胡ガキの

こいまるびハ。コヤレ下ロビニテ。ころびふま義之。展ハ老悔ナド

同活ニテ展轉シテ卧スルヲこいふもトモ云之。万五長哥ニモ

宇知比佐受宮弊能保留等云云。等許自物宇知許伊布志提云

截断

○万三妹も吾も清之河のかもぎのいもくゆべまこころをり

ハヨメハカハニシヤレ

ある 連躰

○元補集秋ふりまふごふんをある。兼えればむのうへともたもあえぬま

あれ 已然

○伊茂保憲集まふ一人ハをゆれどあふはなる

いよ 希求

○ウチ花笈上廿九木まゝて涼さうげい美人乃すもあもるまをたはいよむ先松

第卅三 羅行

り 將然

○古恋三このあつらそで牟あついつまにこりぬころを人たうらん

○後并恋二あはやくなられぬとなりふりを悪くさすのまもあうぬ

○ハ前ニシイヒタル如ク將然言ニ
非^ハコリ^ル人^トコリ
を^ハふ^ル人^トふ^ルを
ナドイフ詞アレ
ハカケレド此活

用ハ詞甚少ナケ
レハ残念ナガラ
証例探リ得ズ

活指後

連用

○^五ゆ、ちどりこへづるまハ抱こさふらしたまへどもこれぞありやく

る 截断

○^五花のまはうつりよりを『いづづよふあやせよふ』ながめせよま

ツイデニイハン。コノ哥降ニ経るラカケタルニハ非ズ。あやせよふ

れバト同ク旧るくヲカケテ。降ニヨセタルニ。サレバコノ歌ハ

キレ処ニタトコロへト意得ベシ。男女ノカタラヒノコヲ世よふるマダト
イフソレヲ云ル哥トミレハあやせよふ

トツギキテ。ふる』トキレハセヌシ。シカミルモヨ
ロレカメレド。ナイヘル如クニミンモアシカラジ。

連射

○^{後打}ふるい。おハ涙のけよこゆれをやあうの横よりあやせよふらん

るれ 已然

○^古たのめうゝまの條今ハ返してんこらあふん。わたさうあな

りよ 希求

貫之集

○^古たのめうゝまの條今ハ返してんこらあふん。わたさうあな

コ、ニ亦又ツイテニイハン。下りよトよ。漆テカク希求トセ

ル詞ハ。羅行中二段ノ活キ故。枕冊子春曙
ニハ車とくめてれ
ニハ

るい。人又ニテキねるい。これ送らんナドモ三エテ。カウ活ノ言

ハたれトハ用ラカ又定リ。舊許ラふれ。ゆま。トハタエテ云

ハ又ニテモ明ナルモノヲ。カノをれるバくりぞ女希むヲ下れる

ト云フニ説ルハ。カヘスバ、モ甚イミシキヒガフナルゾカシ。

○和行ニ中二段
 活用ノナキハ如
 何ニモ尤ナリ率
 井モ一段ニシテ
 崇神紀ノつきり
 ハつきキルノキ
 ルヲ約メテウト
 ナリシモノナリ
 ヨク味ヒミル
 ベシ
 序ニイフ事アリ
 用モ和行一段ナ
 ルニ中二段ナリ
 ト思フ人多シト
 見エ近來ノ著書
 ニハ用ラト書キ
 シ物誠ニ多シ是
 モ非ナリ尤四五
 百年已來八街ノ
 説ノ如ク用い用
 ふト波行中二段
 ニセルハ例アル
 ナリ

注指後

第卅四

和行

此行リニハ中二段活語ハ元來ツモナキカト思ハル
 ニヨリテ畧図トシテアルニカノ率^{ヒキ}モヤハリ一段
 ノ活キナラシクナドイヘル義山口葉ナル論ニテ考
 シ崇神紀ノ菟岐子ヨリ三考ヘテハちま^下ニハ^み
 ト活ク詞アリトセルソノモトハ古事記傳^二ヨリ出
 ルナメレド傳ト同作ノ活用抄ニハ率^{ヒキ}ヲモひきみ^みトシ
 テかき^みト活クトハサダメタラズ

一段活

第卅五

加行

将然

○さうきにころもハ海く降てまん花のちりあんのちれかここ

連用

○須广のりまの塩やまぬのあなまこわうはれはいさきさ訓ど

截断

○まう衣まるとまうううくまはいつれの人のあとうーたけん

連射

○たろのうろろのころもわんをうまき山風にこそころるべしあれ

已然

○麻衣まのれバたろうしきの玉のいもせのあまうり麻まけ^音妹

希求

○お妹子うまうましきよとたろうたるおのひもをりれとあやう

第卅六

奈行

将然

〇^カきびー耳よりく似^〇であーくひの足^ナ痛^ナま^ナが^ナつ^ナよ^ナた^ナべー

に 連用

〇^直うつせいの^〇世も似^〇る^〇さ^〇く^〇花さく^〇と^〇み^〇ま^〇か^〇つ^〇ら^〇り

に 截断

〇^万昔妹児が家のうさつのさゆりむゆりくくま^〇バ^〇不^〇詞^〇云^〇二^〇似^〇

に 連躰

〇^万いも^〇似^〇る^〇茶^〇と^〇う^〇り^〇茶^〇あ^〇の^〇入^〇の^〇山^〇ふ^〇さ^〇流^〇る^〇を^〇り^〇

に 已然

〇^外鎮西^〇よ^〇く^〇眼^〇の^〇ま^〇ろ^〇れ^〇息^〇の^〇通^〇し^〇程^〇こ^〇威^〇勢^〇種^〇姓^〇栄^〇花^〇重^〇職^〇も^〇あ^〇る^〇に^〇似^〇

に 希求

△第卅七

●波行

干^ナ乾^ナト^ト噴^ト鳴^ト嘔^トナ^トト
同活^ナ之^ナ歎^ナ麓^ナモ^ト同活^ナナ^リ

ひ 将然

〇^古いで^〇め^〇ん^〇人^〇を^〇さ^〇め^〇ん^〇よ^〇あ^〇ま^〇に^〇と^〇り^〇の^〇う^〇こ^〇も^〇れ^〇も^〇ひ^〇ぬ^〇り^〇

ひ 連用

〇^草夕^〇さ^〇れ^〇ば^〇い^〇と^〇ひ^〇く^〇に^〇さ^〇そ^〇て^〇杖^〇の^〇ま^〇さ^〇ん^〇た^〇さ^〇そ^〇り^〇つ^〇

ひ 截断

ひ 連躰

〇^万昔^〇背^〇子^〇を^〇相^〇え^〇し^〇き^〇日^〇今^〇日^〇ま^〇で^〇に^〇さ^〇く^〇も^〇手^〇ハ^〇ひ^〇る^〇時^〇も^〇な^〇

〇裏もひぬり
ハ前ニモイヘル
如ク将然ニハ非
サレドモ用例ノ
誠ニ少ナキ詞ナ
レバセン方ナシ

△第卅九 ●也行

い 將然

○竹取物語詞
ふささくさりのいんとをれも外さぬへいさりれば

此射並ニ鑄ナドハ也行ノい之本居氏モ八衢^十ニハ定メ兼^十シ
レド詞通路ニハ阿行ノナラスト定メタリ万葉ニ弓ヲイトヨ
ムベキ処モアリ下夕由めハ眠目ナルナドノサダメクハシクハ別
ニ考アルトシ

い 連用

○^{五三}まけくをのめを志振起いつるやを後人ハ詠りつぐがひ
いる 截断

○^五九まのくもいゝるふあつさうもるくくものほくたさうを

いる 連射

○^五まけくをがさうつまをむけまきま向ひいるまどくハみまよさやけし

いれ 己然

○^{忠孝集}てる月をとりたりともしりふとハ心のまきしといれバなうりり

いし 希求

△第四十 ●和行

め 將然

○^五山のまにまきさるあださのちまきとみんその川の深し深きをめ
往 將居

○射よノ澄例ハ
盛衰記三十三
我ニ志ン人々
ハ木曾ヲ一矢
射ヨヤト觸タ
リケル

△第四十二 ●佐行

〔さ〕 将然

○^古うぐひまのまゝぬふてふ栴のむおてうぐ。ん^老おいくらるやと

〔ち〕 連用

○^古ふらゝのたぬちうり。とぶるのうまうへいゆる秋の長月

〔ま〕 截断

○^万ま日ゆくゝ軽ふる雲のあひくゝまこれハ悪ま。『月日』けふ

〔ま〕 連躰

○^古ぬれそかまぶちのまくのまのまにいつちとせぬおハ経るん

〔せ〕 已然

○^古アソくそせむ。柳さくくをこまませそ郊ぞしるの跡なりある

〔せ〕 希求

○^古ちりぬも香をぶにのこせ。栴のむおてうぐの時のおひてうせん

此類アグルニタヘズ多シ。文ニモ^古天の河系といふる、いふを

よみてさうづさハさせといひられむ。ナト夥シ。サレバ例ノ挙ルテ

テモサケレド。俗言ニハ。のこせよ。させよトヤウニ多ク云故。童

蒙ノ為ニ其ワキラ示ントテカクテ云。よ。モジ添ハハカ

二十●佐行トサキニ示セル詞ノ活キニ混フ。^女セヨリウリ。ト活キ。後

△第四十三 ●多行

〔た〕 将然

○^古まがろなく秋の雫系鈴さそく揺ゆく人をいつらまふん

ち 連用

○^古とちぬむぬまぬきう人もあさ物をあふん娘の布さふらん

つ 截断

○^互琴とればちげきさぶろ。くくくくくくの下ひよまあやこもれる

つ 連躰

○^古まろふらぬおくお居のけさあきめめくくくく

に 已然

○^古まふそどむも白さぬぶぶぶぶぶぶのうらふぬふうくくくく

に 前求

○^古まてといふちらぐくとまるおあうバ何を様うまひまさす

コノでヨリらりるれト活ラケルハ下ヅる。モジソヒテオ九ノ連

躰言トナレルハ。

○^古くくくくををやつくさんまゆの尾ふたてる。松あらあくふ

ノ類。スベテ少カラス推テレルベシ。・以外満てらん。まてり。まてれナド、オ九ノ形状言トナル例思ウテ知レ。

△第四十四 ●波行

え 将然

○^古年の肉くまたまにらりくくを去まよやいせん。とまよやいせん

い 連用

○^古あひいづるささめゆのきつどいもぬかそられくくくく物を

○待てトイフ詞
ニル文字ヲツグ
テまてるとナリ
或ハ満てらん立
たり待てれトナ
ル事ライヒテ其
條理ライハザル
ハ残念ナレハ聊
イフベシ
元来立有待有ナ
リ又之ヲ解部ス
レバタチアリマ
チアリナリチア
ガクトナルヲ又
テニ轉シタルナ
リ則立有ン立有
立有立有ナリ

ふ 截断

〇^古あういそふそ 汲きまにそ。『あまのうらや』のいひのうら

ふ 連射

〇^古こころよりまきあうそむる様むあるといふ。『あまのうらや』のいひのうら

へ 已然

〇^古とらまぬと人いへど。『あまのうらや』のいひのうら

へ 希求

〇^古今又よそふべき人もねもわえい八まむらうて門させりてへ。『

坊へニらりるまノ文字ノ添ル中ニ才十ノ已然言トナル多シ其一。』

〇^古ぬいあふぬ者了そ句へれ。『秋の野』のうらやのいひのうら

〇門させりてへ
門させりと
トイフ約言ナレ
ドアマリ耳速キ
詞ナリ同活用ニ
テ奇哥集三ニ
誰り又枯野也

△第四十五 ●麻行

ま 将然

〇^古もろさめのあふハ汲りさうくそ花ちうを松まぬ人なるれて

み 連用

〇^古おくふよ紅きま。かなくあうのまきまそそ秋てくれーさ

む 截断

〇^古いありねおきまそくの田長ハけふのむ。『あまのうらや』のいひのうら

む 連射

〇^古まあこあるーうぞなくある女前むおのうまむ。『あまのうらや』のいひのうら

め 已然

忍ぶ女郎花已
もあふ秋の
夕暮
〇惜まぬトイフ
ヲ将然言ノ証例
ニ出シタレド前
ニモイヒシ如ク
打ケシニシテ將
然ニアラス惜ま
ん住まん又惜ま
む住まむトイハ
ハ将然言トスベ
シ大和物語ニ
忘州あふる野
へとこい忍ぶ
めどこい忍ぶ
ん後もれたのま

ノ類イトノ、多シ。サテ又此希求言テレノ、よモシ漆タルモアリ。仲
文集卅七ニ入れよト三エタルナド。坎上ノ上者ニ云ル趣ヲモ考ラベレ。

第四十七 將

人 連用

君やえんまればやゆん〇のいざよひまほのいさ戸もささくをねはるり
コレハ用ノ詰ラ受タルのニト詞の玉の緒ニアレド。本ハ用ナルヲ躰ニイテセ
ル上ナラデハのト受ルハ都テナキコト。サレハ此哥ニテモ人ヲコハ躰ニヤ
ルニテ。カノ「あさひのまゆく」のまかハナド、全ラ同例ト云ベシ。カハアレド
其躰ニイヒナサル、詞ハモト連躰言ナドナラズ。百二十九テモ連用言ナル格リニ
サレバカク躰ニレテのト受タルハ是即チ人ハ連用言ヲカヌルが故ト知ベキニ
君やえんまればやゆん〇ハ此ナドニテハ、テレテ連用ト云テ明ニ。

人 截断

後やまいざまよりてとてゆん〇とへぬる方ををふりぬるり

〇此人のト續ク
辭ハ何レ有シ有
メナドノ如ク一種
ノ活用ヲ作シタ
ル物ト思ハル、
ナリ然ルニ此辭
ニ連用希求迄モ
アリトセンハ非
ナルヘシ茲ノ我
や行人のつぎよ
ひトイフモ即將
然ナリ意味ハ我
や行人ト思フノ
いざまひトイフ

心ナレバナリ尤
此辭物然截断ヲ
持前トシテ連体
ヲモ然タリ見ん
人來人春ナドイ
ハハナリ又希求
ニモ言ハレズ強
テイハントスレ
ハいうで見んナ
ド外ニ詞ヲ設ケ
サレバ語ヲ全ク
スル事難ハズ

人 連躰

コノ人ハ万葉ナドニ將ノ字テタハ欲ノ字アテタリ。唐詩ニモ花
欲然ナドハゆえん〇とをトコソヨムベキニゆえん〇とつてトヨ
ミ来レルハヨク思ヘバカナハ又「サテソノ欲アルヒハ將ニア
タハ」自下ノ人〇人〇人〇ノ三三ナ同レ。サハコトロヒ「凶ナレ
ノ意ラジケテ三ヨ。

君やえんまればやゆん〇のいざよひまほのいさ戸もささくをねはるり
已然

サテコノ人〇ツギノま〇人〇ハ希求言トナルコトナレ。故ニ希求

言ト書シテ横ニトホレル〇ノコ、ニ至リテハ〇トアラハシテ

アルニカヤウノフスベテ聊ノフモワケノアル畧〇ゾ凡〇ソニノ

三者過スコ勿レ。

第四十八 ●ま

連用

のト受ルハ躰言故ニソノ躰言マ。ナルハモト連用故ナレバ
コソ躰ニ云ヒナサレラノノテニハニウケラル。

和田の系よせくる浪のあむくもえまういのかしきむつーはくも

あむくもえまういのかしきむつーはくも
用ラキトイフベシコレ四種命ト大同小異ノ処。

あむくもえまういのかしきむつーはくも

截断

まのちうじてさくくのまういせまのころえのどけうまうい

連躰

まのちうじてさくくのまういせまのころえのどけうまうい

カク物ト云躰ニツバケリ。まういをト歎ノ語ニツ子ニ云ルシモ思

○見まくノまうい
ハハノ意ナレバ
将然ニモイフナ
リ又連用言ニモ
ナルナリ故ニ茲
ノ見まくのまうい
ハ将然ノ例ト
ニナクまうい惜
まハ連用ノ例ト
スベレ

ベニ歎ノニテ恒ノニテ都テをハ連躰言ヲ受ル定例ニ。図

○まのちうじてさくくのまういせまのころえのどけうまうい

上ナルハモト連躰言ナレドぞトカリテ截断セル例ニ。下ナル

ハ截断固ヨリニテソヲヤトウケタリ。キル、言ヲ受ルヤハ畧図ノ

アラハセルヤニテ諸法用言ノ截断言ヲ受ルニ。凡ソヤハスヘテ連用截断連躰
三ハサラシ。ソリニハ已然言ヲ受ルトヒアリテ其意オノ、別ニ詞、上ニタツカ
ノぞのヤ何ノヤハ連用ヲ受ルト連躰ヲ受ルトニ通ズルヲ。ハ截断言ヲ受ル
ヤハサルカリノヤトナルトナレ。コノ意ヲエテ見ベレ。

已然

○人まねがたえまういかむくもえまうい

此まういかむト云語出レバ其末ヲ必又まうい。ハズ大方ノ例ナル。

○まのちうじてさくくのまういせまのころえのどけうまうい

川物語刊

コレハまゝらバ嫉し〜は意ヲ下ニ含メテ云ヒ殘セル物也。

ま〜を抄をとりへ〜又〜もあ〜亦ハかひせられ

コハ截断ナリ

あま〜よ〜と〜んぞありにりり

第四十九

・んぞ

コハ哥ニハ絶テヨテ又ナレト。中昔ヨリナニタレノ文ニハ
イトノハホカルトユエ別ニ図ヲ設ケ示セル也。

截断

あーのむき〜ん〜いあんぞ。〜るき〜こと〜のま〜

清りあ〜り

波も〜のふ〜う〜うへに〜ま〜ぞんず。

連躰

さ〜ら〜ま〜ら〜ん〜ま〜ら〜い〜ら〜ら〜ら〜ら〜

○ずらトイフ連
体ヲ出シテずら
もずらとバカリ
ヲ見セタルハア
カズ平家物語

あ〜ら〜らんをい〜せん。〜といひ〜り

コレハいうハトカ、リテむらト截断スルヲト受タリ

已然

伊豆の山〜和尚ユなり給ハんぞ。まよといひ〜る

右ノ才四十七ノんめ才四十八ノま〜ら〜ら〜ら〜ら〜

全躰が將然言ニテ其中ニテサラニ連用截断連躰已然ノ四

分ル、ニ。タトヘバ書ニ眞行草アリ。其眞ノ中ニテ又眞行草

アリ。艸ノ中ニテ又眞行草アリ。行ニ又眞行草アルソノ眞

ノ中ニテ行ハ一躰ノ行艸ニクラブレバ。タゞ眞ハベキガ如シ。トコ

トニ面白クウテキ味アルト也。カミノ〜り〜き〜ら〜ハ全躰

カ過去ヲカタル詞ナレド。其中ニテ

當家を傾り
とす謀反の
事ニを京中
にちくなんま
れ

用ハ關
 ナリイフハ餘
 リニ疎ナル説ナ
 リ元來此詞ハ軍
 書体ニ多クシテ
 決シク欠タル者
 ニ非ズ則變格ノ
 セシスルスレ
 ノ活キナリ平家
 物語ニ實盛ノ事
 タイヘル処ニ六
 十子餘りて軍セ
 ヲ云々老武者と
 て人ニ慢れんも
 口惜しうるべし
 トアリ是コノ將
 然ナリ又軍して
 功名してナドイ
 フハ是又此連用
 ナリ如此歴然ア
 ル詞ナルモノヲ

ヤ
 又何すん何す
 らめはんめノ詞
 ニ為ノ添リタル
 ニテ是ト異ナリ
 是モ昔書ニ多
 シ米ランズラン
 致サンズラメ等
 ナリ
 ○檢中汝ガも
 けハノ語ヲ出シ
 テ細註ニ將然言
 ヲ受ル詞ニテ無
 ケラ受タルナリ
 トイヘルハ無け
 ヲ將然ト見タル
 者カ不審シ無け
 るハ無けれをノ
 れヲ省キタル物
 ニテ証例夥シ
 けを遠けを近
 けをナリ是ハ何
 レモ既然言ナリ

又ナホ將然ハ已然ハ
 此冊九ノ造語ハ哥ニハナレ。但シ是モ元來ハ

以語ノ全躰が將然ナルヲ。其中テ分ル、將然連用ハ關テ。唯

サテ因又略示トアルヲモツニ其例ヲ云ニ。日本紀十三四 あくらし

き。あるべのさくみ云々。旨我那稽摩たれうかけんよあさり墨

繩。旨我那稽摩ハ汝が無ケバニテコレ也。春日の云々。宇都之家米也母

万葉。コハオ三例ノ下ニ類例ニス。こひけむくこせん。古

四。さるふ人よこものさるふ人。サテトヨ。又万。あさり墨

の酢四。れどたのうつまこそ。めつらあき。日本紀仁徳卷ニころも

こそ二重もよき。万。むろろまきぬる妹もあらば。夜の長きも

うれ。うるべ。サテ又古今序。古ををりきて今をこひ。さる

くもトイヘル如キ。万葉ナドニ多シ。抑もほてををハ。如ク連

躰言ヲ受テ。已然言ヲ受ル例ハナキ。然ルニ人ハ連躰截断ノニ

ノ活ニテソレヲ已然トスルトキハ縛レテめトナルヲ。其め。レモウも

ト受ルハイカニハニ。コハ返々モ已然言ヲウもト受ルニハ非ス。ウもハ

決メテ連躰言ヲウク。サルカラニめ。も。ハ。め。ウ。む。ト同シサ。ニ

連躰言トセルモノトゾ知ラル。ヨク。考フベシサテ有リノリ。連

躰言。テモカヌル言トレ。アルヒハ其活キレ。ヲ已然ニ限ラズレテ截

断言。テモカヌル言トマル。是亦古キトコロニハコレカレトアリ。サ

ルニヨリ畧示セル。図ナルゾカレ。百あの大。人ハいとま。われ。や。ハ

ルニヨリ畧示セル。図ナルゾカレ。百あの大。人ハいとま。われ。や。ハ

ルニヨリ畧示セル。図ナルゾカレ。百あの大。人ハいとま。われ。や。ハ

ルニヨリ畧示セル。図ナルゾカレ。百あの大。人ハいとま。われ。や。ハ

ルニヨリ畧示セル。図ナルゾカレ。百あの大。人ハいとま。われ。や。ハ

又將然ノ方ハヨ
 是モヨクハ速
 ケルナリ全体良
 行ハ自然ト省カ
 ル詞ナル事委レ
 キ論ハ或愚著雅
 俗文法後編ニ出
 シ置ケリ
 ○社ノ結ヒヲま
 等ニテ結フハ珍
 ラシカラズ尚外
 ニモ此ノ如ク又共
 よリ等ニテ結フ
 事数々例アリ
 ○又古今集ノ戀
 ささめりトイ
 フヲ出セルハ如
 何ナリ都テ古文
 ニハめやもトイ
 フハ誠ニ多クめ
 りトイフハ古

今集ノ序ト万葉
 ニ一ツニツ見ル
 ノミナリ然レバ
 めやもヲ正レキ
 例トシテめやも
 ハ強テ論ゼズテ
 アリナン
 ○又暇あれやト
 イフハ例多キ詞
 ニテあれやもや
 トイフヘキヲあ
 れやト約メタル
 ナリ
 ○せりやゆ立て
 リ見ゆノせり立
 リヲ連体ナリト
 イフハ條理ナレ
 則裁断言ナリ

活指後

ルナトハ。れヲ截断言トセルニサテ又いざりせり。こゆ。兼。つまた。り。こゆ
 コトモ。ナドハ。マ。ヲ連射トセルニヤト思ハレ。これや。何ありト様ニ云ルモ
 サヤウ軟氏思ハル、カタヨリ。又シテ。リ。ハ連用截断連射ノ三
 シカヌルサテニテツ。下ワタリ示レハ置レタルニサレドコハイツレモ
 必ズト決メテニハアラス。タゞ後学ノ精研ヲテツノ三ノワザゾ
 トノ口説モアリキ。カ、ルタグヒ又ハジメニイヘル一隅ヲアゲテ
 三隅ヲ示ス。トビナド。カノく其意ヲ逆ヘツ、ヤウノ、カヒツ
 キ定考レテヨトコ、ニモイヒサレオクニナン。
 ○サテトヨ。オ。四十。みよ。ノ。尤。ニ。聊。本。ヲ。張。リ。云。置。シ。テ。今。コ、ニ
 クハレクイハントス。ツ。左。ノ。又。ヲ。ニ。ベ。シ。

○卅九

		一 段 ノ 活								
		著	似	煮	干	噴	見	射	鑄	居
將然	キ	ニ	ハ	ニ	三	イ	井	イ	井	井
連用	キ	ハ	ニ	ハ	ニ	三	イ	井	イ	井
截断	キ	ハ	ニ	ハ	ニ	三	イ	井	イ	井
連射	キ	ハ	ニ	ハ	ニ	三	イ	井	イ	井
已然	キ	ハ	ニ	ハ	ニ	三	イ	井	イ	井

八衢上卷 六。ろ。り。を。そ。へ。て。さ。さ。り。詞。と。係。り。詞。と。を。々。係。り。る。
 ハ後の字りにてふちくハ万葉。春。野。の。う。は。ぶ。つ。て。煮。良。思。
 又古今集。花。と。や。え。ら。ん。六。帖。六。二。ね。が。え。の。ま。さ。さ。り。似。へ。さ。
 後撰集。ま。て。え。へ。さ。人。も。あ。し。さ。土。佐。日。記。似。べ。さ。る。方。

○此処丁寧及復
示セルハ一段言
ノ見熟ナドノ
詞ニル文字ヲ添
ヘズテ見らん煮
ラジベナド
イフ格ノアル事
ヲ述タルハ尤ナ
レド此一段活用
ニノミ限レル様
ニイヒタルハ充
分ナラズ其ハ如
何ニトイフニ良
行ノ字ヲ省ケル
ハ大凡押渡シテ
ノ論ニシテ決シ
テ一段活用ノミ
ニ非ズイハ然
む善クを述るを
遊るをハラヲ省
ケルナリ又地名
ニテ狩野緑野鳥
取又頻波等ハリ

ヲ省ケルナリ又
ルヲ省ケルハ此
書ニ出タル詞共
多ケレド尚外ニ
モ有リありた
りありありた
りざりありた
りさべきあり
ハ皆ルヲ省ケリ
又惜けど善けど
遠けど近けど
と吾と此より彼
より其誰ソハ
皆レヲ省ケリ又
義心地恐何丁野
等ハハハハハハ
右等ノ詞ニテ共
大凡ヲシルベシ
長行ハ柔軟ナル
詞故ニ物ノ間ニ
挟マレハ自然ト
省カルナリ尚委
シクハ予カ愚著

活指後

○單

二音い。き。ひ。み。み。より。お。く。詞。を。う。ら。ま。て。よ。を。え。を。用。ひ。こ
り。ト。ア。リ。ゲ。ニ。シ。カ。ル。ト。サ。レ。ド。る。り。を。そ。へ。て。よ。後。の。定。り。ト
イ。ヒ。用。ひ。り。ト。イ。ヒ。ス。テ。タ。ル。ハ。ア。カ。又。云。ヒ。ガ。テ。コ。ハ。る。り。を。そ
へ。て。よ。る。り。詞。と。つ。く。詞。を。か。ひ。り。る。ハ。ま。づ。大。く。の。定。り。な。ん。ど。
古。く。よ。う。後。に。ま。で。も。万。多。く。よ。ま。ま。の。う。も。ま。つ。と。て。煮。良。思。も
よ。オ。二。音。を。ば。べ。き。ら。し。ら。ん。あ。り。受。る。も。又。か。う。ら。ざ。ト。様
ニ。云。タ。ラ。ン。ゾ。ヨ。カ。ル。ベ。キ。う。つ。お。考。原。君。卷。ニ。き。の。ハ。え。ら。し。枕。冊。子。ニ。大。く。人
も。多。く。よ。ま。ま。の。う。も。ま。つ。と。て。ト。アル
ナ。ド。古。キ。処。氏。云。ガ。タ。ク。シ。カ。ノ。ミ。ナ
ラ。ズ。ム。ゲ。ノ。近。キ。物。ニ。モ。猶。ア。ル。例。ニ。サ。テ。コ。レ。ラ。バ。ら。し。ら。ん。べ。き。ノ。助。辞。ハ
ス。ベ。テ。ハ。キ。ル。言。受。ル。ナ。レ。ド。右。ノ。ヤ。ウ。ニ。三。エ。タ。ル。ハ。助。辞。連。用。言。ヲ
受。ル。ト。モ。ア。ル。ト。イ。フ。ベ。キ。ニ。ヤ。ト。モ。思。フ。人。ア。ラ。ン。欤。ソ。ハ。ワ。ロ。シ。コ。レ

ハ。ん。ら。し。べ。き。ハ。普。通。ノ。例。ノ。下。ニ。キ。ル。言。ヲ。受。ル。定。リ。ト。シ。テ。オ。キ
テ。其。ら。ん。べ。き。ら。し。レ。テ。受。ル。ハ。是。レ。即。チ。居。見。ナ。ト。ノ。截
断。言。氏。云。ベ。キ。例。ゾ。云。ベ。シ。サ。ル。ニ。ヨ。リ。テ。上。ノ。件。ノ。如。ク。ニ。ハ。示。シ。タ
リ。シ。レ。猶。又。コ。レ。ラ。タ。シ。カ。ニ。セ。バ。万。葉。六。上。ろ。づ。よ。見。友。あ。り。め。や。
同。十。美。代。よ。ろ。づ。さ。も。り。み。て。あ。ひ。見。頼。コ。レ。ラ。モ。同。十。八。ナル。義。等。母
あ。く。べ。き。浦。あ。ら。な。く。は。又。二十。つ。ら。く。義。等。母。あ。り。め。や。又。志。バ
志。バ。義。等。母。あ。り。ん。君。う。も。ナ。ド。カ。ケ。ル。ニ。合。セ。テ。何。レ。モ。見。ラ。ト。モ。ト。ウ
ケ。タ。ル。ハ。ミ。ハ。コ。レ。截。断。言。ノ。証。ト。云。ベ。シ。抑。て。よ。を。え。ド。モ。ノ。アル。ガ。中。ニ
と。と。と。ノ。三。ト。歎。息。ノ。を。ト。問。カ。ケ。ノ。ヤ。ト。ナ。ド。ハ。諸。活。用。言。へ
オ。シ。ワ。タ。リ。一。貫。シ。テ。決。定。イ。ハ。ユ。ル。截。断。言。ヲ。受。ル。格。ナ。ル。略。示。ノ

理よりなるをわれははやとせしむる一又はさしつかへて
 ちむ抑ひし一其れ詞は林はあまやうある也とせしむる
 事のまじりたるをいふはあまやうある也とせしむる
 校するをいふはあまやうある也とせしむる
 意りゆくは校はあまやうある也とせしむる
 抑ひしとある書は諸人の腹を熱くししは花は実
 とらむたれふまじりし獨りしとあるをいふはあまやう
 けりしゆるは天保十三年三月廿七日

上毛郡岡本村の義門 新井守村

明治十八年一月廿八日版權免許
 同年六月出版

脱稿者

最

義門

師

定例金五拾銭

補成者

故

平井重民

福岡縣古賀

校訂者

里見

義

日本橋區無敵町三丁目十一番地

東京府平民

出版人

丸家善七



日本橋區通三丁目十四番地

改正 學校用物理書

山岡謙介先生譯
小林義真先生關

全四冊

定價 金八拾錢

倫敦ノ書肆マクミラン氏當今ノ碩學ニ謀リ諸學ノ大要ヲ記シ普
通ノ教育ニ用キルベキ書所謂サイアニス、プラトマルスト云フ者
發行ノ舉アリ此書ハ其物理學ノ部ニシテ最近ノ新說ヲ約載シ
尤モ精該ナリトス物理ノ大綱ヲ教フル之ニ絶好ノ良書アルベカ
ラス

訓蒙化學

中川謙二郎先生著 全二冊

定價 金六拾錢

右ハ東京女子師範學校教師中川先生小學高等科用書ノ目的
ヲ以テ著述セラレシ者ニシテ務メテ適切ヲ主トシ初學ノ者ヲシ
テ隔靴范洋ノ嘆ナカラシム就中實地ニ就キ事物ノ理ヲ證セン
カ爲メ六十有餘ノ試驗ヲ載スルカ如キハ授業ノ者習讀ノ者兩ナ
カラ其便ヲ得ヘキ良書ナリ

